

予算総額七十三億六千万円

一般会計は五十五億四千四百万円

「まちづくり」の基本方針決まる

三月に開かれた第二回定例市議会で、今年度の「まちづくり」の基本となる「昭和五十六年度日光市予算」が決まりました。

これによると、一般会計五十五億四千四百万円、国民健康保険事業費など四つの特別会計が十二億九千五百三十六万一千円、リフト事業会計、水道事業会計の二つの企業会計が五億二千六百八十八万五千円、合計で七十三億六千六百四十六千円になりました。今号では、予算の内容や主な事業などをお知らせします。

また、星野市長は議会の開会にあたり、五十六年度の市政方針を次のように打ち出しました。それによると、日光市の豊かな自然と文化遺産を保護

人事

監査委員の選任

昭和五十六年三月十九日で任期満了となる、現委員の野口清氏を選任し、同意を得ました。

固定資産評価審査委員会委員

昭和五十六年四月十四日で任期満了となる、現委員の高野忠治氏を再任、同意を得ました。

条例の制定

日光市下水道事業基金の設置および管理運用に関する条例

事業の財源補てん、地方債の繰上償還などの財源に充当するため、この基金条例を制定し、下水道事業を円滑に執行しようとするもの

です。

条例の改正

市課設置条例の全部改正

事務の省力化、効率化と事務量の増大に対処するため、市役所の機構を改革しました。(改正の要点及び新しい機構、それにともなう人事異動などは、4・5ページに掲載しました。)

市職員の勤務時間、休日および休暇に関する条例の一部改正

職員、四週に一回の交替半休制を実施するための改正です。

議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例

地方公務員災害補償法の一部が改正され、遺族補償年金の額の改

することを基本にして、明るく住みよい文化観光都市の建設を進める。そのためには、①教育文化の向上 ②社会福祉の向上 ③市民生活環境の整備 ④産業の振興などで、各分野にわたる施策の実現に努力していくというもので、住民の希望にそった施策を進めるためには、住民との触れ合い、対話を強化し、理解と協力の中で、職員ともども真剣に市政の執行にあたることを表明しました。そのほか今回の議会には、市監査委員、固定資産評価審査委員会委員の選任同意、市役所機構改革のための課設置条例の改正など、全部で二十の議案、五つの報告事項、十つの請願・陳情がありました。

善、障害補償年金差額一時金制度が創設されたため、非常勤の職員にも同様の措置をするための改正です。

市営住宅管理条例

湯元地区に新築した市営住宅の家賃を、月額二万五千円と定めました。

市少年輔導センター条例

青少年健全育成協議会を日光市青少年問題協議会と名称を変更したため、条文の語句を改めたものです。

市議会委員会条例の一部改正

市役所の機構改革が実施されたため、市議会各委員会の所管事務が、次のようになりました。
▽総務常任委員会(七人)

秘書企画課、総務課、財政課、

税務課、市民課、施設管理課、会計課、監査委員、選挙管理委員会

▽教育民生常任委員会(七人)

保健衛生課、福祉事務所、教育委員会

▽観光経済常任委員会(六人)

観光商工課、農林課、農業委員

会

▽建設常任委員会(六人)

建設課、都市計画課、水道課

条例の廃止

第三十五回国民体育大会秋季大会に伴う施設整備および運営費

基金の設置・管理および処分に関する条例

国体の施設整備、運営費にあ

表紙のいとは

シリーズ

山のある風景

太郎山

三月下旬、太郎に逢いに行つた。春を見出そうとした考えは甘く、彼は厳冬の姿をそのまま見せてくれた。

普段から、孤独なイメージの太郎山(二二六七)には、何か魅かれるものがあった。

孤高な、その姿ばかりではない。男体山から女峰山の間に連なる大真名子山や小真名子山などの家族的な山々から一人離れて、気品高く、その姿勢を決してくすそうとしない姿が、いとおしい。

一歩一歩ふみしめてこの山に登る時、その淋しさらしきものをいつも感じるのだが、そんな感傷には関係なく、山の心は、もつと厳しいものにも思えてくる。

西峰から山頂に至るやせ尾根は、日光三剣の一つといわれるし、新羅などでは、滑落事故も多かった。なかなか厳しい山なのである。光徳の登山口には、白樺の句碑「白樺は月が夜来てさらすらし」がある。白樺の新芽もまだ早い。春の遅い奥日光、太郎の雪が消えるのは、いつだろうか？